

セゾン・アーティスト・イン・レジデンス オンライン・リサーチ・レジデンシー 参加アーティストのご紹介

セゾン文化財団では、セゾン・アーティスト・イン・レジデンスとして、ダンスやパフォーマンス分野で活動する国内外のアーティストを対象に、オンライン・リサーチ・レジデンシーを実施しております。

オンライン・リサーチ・レジデンシーは、創作を見据えたリサーチを支援するプログラムで、アーティストとしての創作活動の領域を広げ、国内外で活動するアーティストとのつながりを深める機会です。

参加アーティストは自身のリサーチと並行し、そのリサーチのプロセスを他の参加アーティストとオンラインでシェアするグループセッションに参加します。期間中、アーティスト独自のダンスの実践やメソッド、リサーチのアイデアや方法論をシェアするオンライン・ワークショップ、またリサーチの成果発表を開催する予定です。アーティストが自由なリサーチからいかに新しいダンスやパフォーマンスを生み出していくのか、どうぞご期待ください。

オンライン・リサーチ・レジデンシー：2021年11月11日（木） - 2022年2月10日（木）

参加アーティスト

					
ヘジン・ジャン He Jin Jang (韓国) 振付家 パフォーマー ライター	ザンダー・ポーター Zander Porter (米国/ドイツ) アーティスト 振付家	Nanako Matsumoto 松本奈々子 (日本) パフォーマー ダンサー	Pijin Neji 振子びじん (日本) 振付家 ダンサー	パット・トー Pat Toh (シンガポール) 振付家 パフォーマー	ヤン・ジェン Zhen Yan (中国) 振付家 ダンサー

〈オンライン・リサーチ・レジデンシー 関連イベント〉

オンライン・ワークショップ

1. 2022年1月8日（土）
2. 2022年1月15日（土）
3. 2022年1月22日（土）

※オンライン・ワークショップは各日程ともに17時-20時に実施を予定しています。

ご参加を希望の方は、当財団のウェブサイトから各回の内容や申込方法をご確認の上お申し込みください。

http://www.saison.or.jp/r_morishita/index.html

オンラインプレゼンテーション（成果発表）

2022年2月9日（水）、2月10日（木）[予定]

※成果発表は一般公開いたします。詳しい内容や参加方法は、後日、当財団のウェブサイトでご告知いたします。

ヘジン・ジャン He Jin Jang (韓国)

- リサーチ・タイトル ゴーストのスイングマイク／Ghostly Swinging Mic
- リサーチ概要 振り子のように揺れ動くマイクの反響効果と動きを存在と不在(悲しみ)というスピリチュアルな概念と関連づけて、「ゴースト」の概念を探る。揺れるマイクは、追悼のための身体的実践であり、不安定なものを扱う研究であり、同時に身体のレクイエムのための空間となる。儀式的なパフォーマンスを目指し、身体と力、パターンとリズム、そしてそこに現れる神経系と幽霊性を見つめたい。
- プロフィール He Jin Jang Dance(HJJD)主宰。誕生、老い、病気、死という人生の4つのステージを通して、身体とその痕跡という現代的な概念を探求し、逃れられない人間の弱さに対する身体の反応を神経系のダンスとして捉える。世界30以上の都市でパフォーマンス/ワークショップ/レクチャーを発表。ダンス分野で、キュレーター、ドラマトウルク、エッセイストとしても活躍している。

ザンダー・ポーター Zander Porter (アメリカ/ドイツ)

- リサーチ・タイトル エモーティング／3M0T1NG (“EMOTING”)
- リサーチ概要 インターネット世界の「クリックできる」表現は、身体が感情を表し、動き、社会化する過程にどのような影響を与えるのだろうか。人間とコンピュータのハイブリッドな存在は、どのようなアルゴリズムで、誰の欲望のために、お互いを変換し、区別し、真似しあうのだろうか。「仮想」と「実態」の間のどこかに必ずや存在する、自己と他者との関係におけるクリアな様相とその儚さを捉え、イメージと感情の間で振付の関係について考える。人相学の視点から、どのように顔(例えば: ☆*:. .o(≧▽≦)o. .:*☆)のイメージが固定化されるのか(あるいは固定化されないのか)を推測したり、レンダリングやダウンロードされた表現から感情を切り離して複雑化したりすることに関心がある。
- プロフィール World Wide Web が普及し始める 1994 年に生まれる。バーチャルザンダー 『Freshy』(2005-2008)、『ORGZurvivor』(2007-2012)、『athlete__22』(2009-2013)を発表。クイア、フェミニスト、ジェンダー研究とデジタル技術の交わりに焦点を当てた議論と実験のためのプラットフォームである XenoEntities Network のコアメンバー。
- ウェブサイト: www.zanderporter.com

松本奈々子 Nanako Matsumoto (日本)

- リサーチ・タイトル 境界のその先にいるあなたと踊るための振付テキストに関する研究
A study on choreographic texts for dancing with someone/thing beyond boundary
- リサーチ概要 「イマジナリーワルツ」は、架空の誰か／何かについてのテキストを書き、それとワルツを踊るという試み。私以外の誰かがイマジナリーワルツを踊るとき、何が起きるのか。複数の人が同じイマジナリーワルツを踊るとき、そこにはどんな関係が生まれるのだろうか。コンタクト・インプロビゼーション(CI)の考え方を参考にして、自分が体験したイマジナリーワルツをよく観察し、振付のためのテキストを書いてみる。誰か／何かの間の境界に重心があると想定した上で、どのようにして境界を設定し、どのようにして境界を越えようとするのかといった問題を扱いたい。
- プロフィール パフォーマンス・デュオ「チーム・チープロ」(2013～)共同主宰。「B.I.C プロジェクト」のメンバー(2019～)。幼少期にクラシックバレエを踊った経験を振り返り、自身の身体を見直すことから作品創作を始める。個人的な記憶や集団的な記憶を自らの身体で収集し、再構築することに関心がある。
- ウェブサイト:<https://www.chiipro.net/>

振子ぴじん Pijin Neji (日本)

- リサーチ・タイトル 『Cue』のための「喪」のリサーチ／Mourning research for “Cue”
- リサーチ概要 行動するきっかけを待つことと、病や喪失から回復するプロセスを振付として制作することを目的とした「喪」のリサーチ。感染収束、ワクチンの接種機会、補助金の採択通知等、コロナ禍で継続している様々な待機の在り様と、時間感覚の失調や体の不調から回復するプロセスを「喪」と捉え、宗教的な習俗としての喪と共に、様々なバリエーションを想定し調査する。それら調査をもとにパフォーマンス『Cue』を制作する。
- プロフィール 振付家、ダンサー。neji&co.主宰。自身の体に微視的な視点でアプローチをしたソロダンスや、ダンサーの体を物質的に扱った振付作品を発表する。2020年にカンパニー「neji&co.」を設立する。未来への展望を得るための振付を作る目的で京都を拠点に活動する。また、リサーチコレクティブのメンバーとして、墓、葬送儀礼、埋葬にまつわる調査を継続している。
- ウェブサイト:<http://nejiandco.com/>

パット・トー Pat Toh (シンガポール)

- リサーチ・タイトル アクアラング／Aqua Lung
- リサーチ概要 水中でより深い呼吸を経験するにはどうすればよいのか。また水の中で動く感覚はどのようにしてそれを捉える映像や音に影響を与えるのだろうか。外界と内界の間のダイナミックな相互作用により、身体と精神に複雑な影響を与える「呼吸」という営みに焦点を当て、それを拡張する新たな方法を想像してみたい。人間と人間でないものの関係性や物質的身体論と理論的身体論の二分法を再解釈しながら、自然と文化、生物学と推論的思考、物質とテキストのインターフェースとして「肺」を捉えてみる。
- プロフィール イデオロギーと生の権力の余韻、効果、トラウマを検証するための実験の場として身体を捉え、演劇、ダンス、ライブアートの手法を横断的に用いて作品を創作している。M1CONTACT Contemporary Dance Festival や Indonesia Dance Festival はじめ、Esplanade's The Studios で上演を重ねる。The Substation のアーティスト・イン・レジデンスに参加。
- ウェブサイト:<http://www.pattoh.com/>

ヤン・ジェン Zhen Yan (中国)

- リサーチ・タイトル 横浜中華街をめぐるリサーチ／Researching China Town in Yokohama.
- リサーチ概要 横浜中華街に暮らす人々が、地域の政治的背景に支配されている事実に触れ、彼らの歴史が異なる背景の中でどのように再記述され、解釈されているのかを探る。中国人と日本人の家族もあれば、早くから日本に移住した中国人の家族もいるだろう。彼らと信頼関係を築き、生活に関わりながら、インタビューや録音、写真やフィルムの撮影などを通じて、彼らが社会とどのように関わっているかを観察したい。
- プロフィール 90年代以降の中国新世代の振付家・芸術監督。コミュニティの生活や場所に付随する文化を観察し、さまざまな社会的文脈における個人性と集団性の存在と美的関係に焦点を当てる。2014年、三部作『Revolution Game』の制作を始める。その最新作『Minorities』は2017年5月にミュンヘンで初演を迎えたあと、ドイツ、台湾、米国、カナダ他各地の演劇祭で上演を重ねている。
- ウェブサイト:<https://www.redvirgo.org/>